

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	彩り-IRODORI-宜野湾教室		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		令和 8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○訪問先施設評価実施期間	令和 8年 2月 1日		令和 8年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士やセラピストなどの専門的な職員を配置していて、必要な支援を専門的な目線で捉え、個々の課題に沿った適切な支援を提供できること。	専門的な職員が中心となり、個々に寄り添い課題を見極め支援していき、それを基に全職員と会議を持ち、共有してどの職員でも良い支援ができるようにしている。	日々の支援を、全職員で振り返り、感じたことや上手くいかなかった点などを話し合い、今後の支援に活かせるようにしていく。
2	訪問先の職員との関係性が良く、色々な角度から子ども達を見て、お互いに支援に活かせること。	利用児を知っている職員とは常に会話をするよう心がけており、担任だけではなく色々な職員の目線を支援に役立てている。	一人に考えで支援するのではなく、色々な人達と連携を図る事で、訪問先、保護者が納得できる支援を目指す。
3	子ども達、保護者との信頼関係がしっかり取れていて、どの職員が支援を行っても納得してもらえること。	訪問先や保護者の対応で、真摯に向き合い、子ども達に寄り添い、一緒に課題に向き合い都度、意見を伝え合う事で、今後の支援の方向性を納得したうえで決めている。	定期的に会議や話し合いの場を持ち、今一度共有がしっかり出来るようにし、職員が変わっても、同じ方向性で支援ができるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の研修の取り組みが少ない。	時期的に朝からの利用児童がいたり、早下校の対応などで、職員全員での研修時間が作れなかった。	定期的に研修を行い、最終的に全職員が同じ研修を受けられて、話し合いの場が持てるように計画していく。
2	まだ、利用児がいなく保育所等訪問支援が開始できていない。	中・高生を中心に支援しているため、なかなか保護者も必要とせず、子ども達も受け入れる事に対し抵抗がある。	支援の必要性のある児童、その保護者へ、支援の取り組みを説明し理解してもらうことで、保育所等訪問支援を開始できるようにしていく。
3	同じ困り感を持っている保護者がいても、保護者会や、保護者同士が交流できる機会がない。	イベント等で保護者が集まる機会はあるが、イベントのゲームの参加で、子どものことで話し合ったり、相談したりが出来ていない。	イベントを設ける時には、保護者同士が話せる時間を組み込んだり、イベントのプログラムの中に保護者の悩みや困り感を拾える仕組みをつくり、保護者同士が興味を持ち関係を作っていけるようにする。